

地域づくり表彰

東シナ海の小さな島ブランド株式会社
(鹿児島県薩摩川内市)

地域の課題を価値へ

ー土地の文脈を耕し、記憶に残る風景をつくるー

東シナ海の小さな島
ブランド株式会社

代表取締役

やました けんた
山下 賢太



1. 薩摩川内市甕島の概要

薩摩川内市は、鹿児島県の薩摩半島の北西部に位置し、本土区域と、甕島区域で構成されています。

甕島は本土から西へ約30キロ、東シナ海に浮かぶ上甕島・中甕島・下甕島の3島で構成された国立公園にも指定されている風光明媚な離島です。

2. 活動開始の背景・経緯

東シナ海の小さな島ブランド株式会社(通称=island company)は、代表を務める山下氏の、ふるさとの原風景を失った悔しさを原点に、地元に住む人が地元愛と郷土への誇りを持ちながら、次の世代によりよいふるさとを残していくために、耕作放棄地の再生にはじまり、集落の風景をつくる多様な事業を展開しています。



山下商店甕島本店



スタッフ集合写真

3. 島の日常にある価値

東シナ海の小さな島ブランド株式会社が運営する拠点は、古民家や公共施設等を改修・利活用しており、

その土地固有の景観や建物の歴史を活かした空間づくりを行っています。

2021年には同社の子会社として「島守株式会社」を創業。空き家、遊休不動産等の保守管理や運用等に関する事業、UIターンなどの移住・定住や交流人口の拡大を創出する事業、人材育成のための研修各種スクールやクリエイティブの制作事業の企画運営事業全般を担っています。

甕島が持つ歴史や文化(ストーリー)、甕島の日常の風景・体験に価値を見出し、地域資源の活用に尽力しています。



旧中甕港 地域活性化施設
「コシキテラス」

4. 失われていくものに光を

東シナ海の小さな島ブランド株式会社の活動は、飲食業や観光事業、通販事業等の多角的な事業展開に加え、空き家や公共施設等を改修・活用した滞在拠点や交流拠点などの地域の拠点づくり(かつての風景の再現)等を通じて、甕島が持つストーリーや甕島の何気ない日常の風景や体験に価値を見出すことをコアバリューとしています。

少子高齢化・過疎化が進行する離島において、失われていく古き良きものに光を当て、空間や暮らしの再生に繋げようとするものであり、地域の課題解決のみならず、未来に必要とされる集落運営のために多様な事業を通じて島内外に広く発信・遡及しています。



築150年を超える古民家を改修した
パンと週末喫茶「オソノバーカリー」

5. 若年層移住者の雇用を創出

東シナ海の小さな島ブランド株式会社では十数名の雇用を創出しており、社員の約半数はUIターン者で、多くが39歳以下です。

現在のスタッフおよびパートナー数は、15名となっており、全国からのUIターン者を多く雇用し、39歳以下の若年層が、94%を占めています。

また、女性比率が7割と高く、地域課題でもある人材不足などの課題を改善し、働きやすい環境づくりにも取り組み、ローカル企業の魅力化を行っています。



U/I ターン比は 3:7、スタッフの
94%が 39 歳以下

同社の活動は、地域の理解・協力を得ながら島の集落(コミュニティ)等と一体となって事業を推進しており、一連の活動に共鳴して移住する若者もいるなど、少子高齢化・担い手不足の進行する甕島において、生

産人口や雇用等の増加に寄与し、地域の活性化はもちろんのこと、その取組により甑島の認知度は向上し、観光誘客にも繋がっています。

中長期的な取組として、若手の育成に向けた高校生向けのキャリア教育や起業・創業支援などにも取り組んでいます。

6. 島同士の広域的な連携

小規模離島やへき地と呼ばれる条件不利地域である島において、島単位や自治体単位での課題解決をするという形式での取組みが先行し、リソースが限られているにも関わらず横の繋がりが生まれにくい現状がありました。

2019年に鹿児島県の南北600キロに点在する有人離島28島から「挑戦が生まれる海域をつくる」ことをミッションとした、実践型コミュニティ「鹿児島離島文化経済圏（通称：リトラボ）」を設立しました。

リトラボにおいて信頼のおける関係資本を構築し、島内外のサポーターやファンづくりに取り組み、鹿児島離島を応援する個人や団体、法人など計125社以上の事業サポーターが所属しています。



鹿児島離島文化経済圏
フィールドワークの様子

島や自治体という枠組みを超えて「海域」という文化経済圏での新たな地域間連携や事業者への伴走支援を実施して、離島地域の喫緊の社会課題でもある産業創出と雇用の確保ならびに交流人口の拡大に積極的に

取り組んでおり、甑島における移住体験プログラム「トライアルステイ」や、鹿児島県内離島の交流企画「かご島インターン」の実施及び移住の実績もあります。

その他にも、鹿児島離島における様々な社会課題に対して、地域間連携や企業マッチング、新商品開発やコンセプトブランディング等の手法により、「FISHERMANS FEST」や、「& island」、「琉球弧サミット」など、地域課題を価値に変えていくビジネスを推進してきました。



KOSHIKI FISHERMANS FESTの様子

また、奄美群島のU Iターンを促進させる県のキャリア教育事業、観光プロモーションのための動画撮影や企業パンフレットなどのクリエイティブ関連、小規模事業者の個別支援などの委託を受けるほか、屋久島における食品の生産から物流までの仕組みづくりを行う合弁会社等も設立し、それぞれの固有の地域課題に対して個別のプロジェクトを立ち上げています。

鹿児島離島文化経済圏での活動を通して、県内の離島との新たな関係性の構築が進んでいるほか、離島での地域づくりの好例として、県内外からの視察受け入れなど、関係人口の増加につながっています。



視察等にも使用するコワーキングスペース
「mirai studio しもとえ」

7. 課題と展望

2024年より、会社ビジョンを刷新し「人生に、島を。」を掲げ、離島密着企業として、日本の島嶼地域を代表するリーディングカンパニーを目指し、甑島地域を主なフィールドにする他、種子島と沖永良部島にもサテライトオフィスを構えています。

また、鹿児島離島文化経済圏のネットワークの活用をベースに、産業の担い手育成による事業化支援、雇用創出、地域の働く場づくりと地域活性化などの課題解決に向けた取組みを推進しています。

離島間のみならず他地域との連携を促進させ、特に「人」「もの」「金融」「情報」などあらゆる事業の障害となる要因を減らし多くの挑戦が生まれる地域（海域）となることを目指しています。

その取り組みの一つとして、鹿児島県では初となるローカルコミュニティ財団「かごしま島嶼ファンド」を2025年4月の設立に向け、準備中です。



県内の有人離島とネットワークを形成し課題解決へ